

札幌市立苗穂小学校の取組【環境に関する教育課程】

1 研究のねらい

苗穂小学校は平成 31 年度に開校百周年を迎える歴史ある学校である。学校ではその節目に向けて、校舎内外の環境整備を実施しているところである。その中でも本年度は特に「花いっぱい運動」を重点として取り組んだ。

本研究では、「花いっぱい運動」を中心とした環境教育を展開することによって、子どもが進んで自然や環境を守ろうという態度の育成を目指した。また、その活動を学校だけで取り組むのではなく、PTA や地域の方々などと一緒に活動することにより、自分が地域の一員であるという自覚をもてるよう取り組んだ。

2 取組内容

(1) 歩道花植え活動（5・6年生 学活）

生命を尊重することや勤労奉仕の意識を育むことをねらいとして、マイタウン・マイフラワー運動でいただいた種を苗に育てて、歩道花に植える活動を毎年実施している。

花植え活動当日には、PTA や地域の方々に来ていただき、アドバイスをいただきながら定植をした。地域の方々からは「上手だよ。」などの声をかけられ、子どもの目も輝いていた。関わりの中での褒め言葉や認める言葉は子どもの自己肯定感を育む。活動後には、地域の方々にお礼の手紙を書いたり、歌声をプレゼントしたりするなど、交流を深めることができた。

花植え及びその後の水やりや草抜きなどを通じて、命あるものを育てる喜びや責任感をもたせることができた。また、PTA や地域の方々との触れ合いを通じ、地域の環境美化に自分たちが役立っていることも感じさせることができた。

秋にはチューリップの球根も植えたので、来年度の春に花が咲くのも楽しみである。

(2) プランター花植え活動（1～4年生 学活）

1年生から4年生で今年度新しく取り組んだ活動である。夏に町内会の皆さんと一緒に、緑化基金プランターに苗を植えた。完成したプランターは玄関前に飾られ、学級ごとに水やりなどの世話もした。綺麗な花は子どもだけでなく、地域の方々にも楽しんでもらえた。

秋には花から種を取るなど、進んで花と触れ合う姿が見られた。冬を前に土を畑に戻して片付けるなど、最後まで責任をもって活動する大切さも学ぶことができた。



(3) フラワーガーデン教室（3～6年生 総合的な学習の時間）

花への興味・関心を高めるためにフラワーガーデン教室を実施した。北海道フラワーガーデン協会の方々から「寄せ植え」という手法を学び、ラベンダーやシクラメンなどの苗を鉢に植えた。子どもは花の種類や特徴を学びながら、思い思いに花を並べた。

子どもは完成した作品を見て、その出来栄えに喜んでいて、鉢は教室に展示し、参観日には保護者の方々も鑑賞することができた。

使用後の鉢は学校で回収し、来年度の開校百周年の際に活用する予定である。



(4) ビオトープ整備

札幌市環境局の協力により設置したビオトープ。開校百周年を迎える来年度のリニューアルを目指し整備した。苗穂小親父の会などの保護者の皆さんや東区用務員のエリアグループ支援を活用し、設置当初のように自然と触れ合いながら学べる環境教育の場を目指した。また、来年度はビオトープ周辺にも子どもと一緒に花がいっぱいになるような取組を行う。



3 成果と課題

(1) 成果

本研究の成果として、「花いっぱい運動」の充実が挙げられる。継続的に取り組んできた活動ではあるものの、環境教育を意識することで活動の質・量ともに充実させることができた。また、開校百周年に向けた環境づくりという明確な目標があったことで、子どもの意識もより高まったと考える。子どもの姿から、「花いっぱい運動」を通じて進んで自然や環境を守ろうという意識の高まりが感じられた。

(2) 課題

今後の課題として、カリキュラム・マネジメントの三つの側面である①教育内容の教科等横断的で組織的な配列、②調査や具体的データを基にしたPDCAサイクルの確立、③教育活動のローカルリソース（地域の人的・物的資源）の活用を更に進めていきたい。そして、環境教育の教育課程を介して地域との結び付きが強まるように発展させる。